

# 評価調書(県総合評価調書)

## 【評価の基準】

- (1)多様化・高度化する県民ニーズや社会経済情勢等の変化への的確な対応
- (2)厳しい財政状況を踏まえた簡素で効率的な事業展開
- (3)県の財政的、人的関与の適正化による主体的・機動的な団体運営
- (4)役職員体制の適正化による自律的かつ効率的な組織運営
- (5)積極的な情報提供の推進による団体に対する県民の理解と信頼の促進

## 1. 評価結果(個別観点)

観 点	評価内容	評 価
団体のあり方	当該財団は、自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護に関する普及啓発活動を展開し、広く県民に対して環境の保全の重要性を訴え、もって自然環境の保全に寄与することを目的としている。また、環境問題や啓発、環境保全、地球温暖化防止活動の推進として、自然系博物館の運営及び調査研究のみならず、環境保全や環境教育の分野においても島根県における中核的な役割を果たしている。今後もこの財団の果たす役割と期待は大きい。	A
組織運営	H22年度においては、理事会・経営委員会を定期的に開催し、活発な意見交換が行われるとともに、適切なアドバイスや意見も挙げられていた。また、新公益法人への移行後における新理事会及び評議員会についても、スリム化した上で速やかにかつ活発な意見交換が行われている。事業に併せて職員の配置改正を行い、サービスや資質の向上に努めている。 県の人的関与：自然環境課の課長が経営委員として、H23度からは評議員として参画している。	A
事業実績	三瓶自然館及び附属施設の管理運営を適切に行うとともに、企画展や各観察会・自然学講座等の開催、あるいは新聞等での寄稿・連載を通じて、環境教育や自然保護・自然環境思想の普及啓発に貢献し、各施設の利用増進を図っている。平成22年度からは指定管理制度第2期がスタートしたが、平成17年度以降創意工夫を凝らしたさまざまな企画等により誘客をはかり、三瓶自然館においては、指定管理第1期から第2期を通じて最高利用者数を記録した。また調査部門では、調査業務の受託のほか、各学芸員がそれぞれのテーマを持って独自に研究活動を行っている。論文等の発表の件数は増えつつあり、自然環境における調査研究機関として活動の幅を広げている。	A
財務内容	当該財団の性格上、財源のほとんどを指定管理収入に頼っているが、計画以上の収入確保、コスト削減に努めていることで、安定した運営資金が確保されている。 県の財政的関与：現在、県の財政関与は基本財産の出捐のほか、指定管理料、各調査業務の受託料、環境事業系の補助金と多岐にわたっている。事業の性格上、行政以外からは安定的な財政支援は望めないため、健全な財政運営のためには、県の財政的関与が必要である。	A

評価の目安 A:良好である B:ほぼ良好である C:やや課題がある D:課題が多い

## 2. 総合評価

	課題の内容等	今後の方向性	評価コメント
団体の経営評価報告書における総合評価について	三瓶小豆原理没林の運営	埋没林をどのような方針で運営すべきか、県主導での方針検討を望む。	施設の無休対応やイベントなど、創意工夫は評価できる。さらに埋没林の魅力をわかりやすく情報発信するよう努めてもらいたい。運営方針については、今後財団と協議し、検討していく。
	環境保全活動支援事業の取り組み	県と協議しながら、適正な事業推進が図られていくよう努める。	松江事務所との連携、県内の各団体や県民との連携を更に深めてもらいたい。(環境政策課)
	大田市及び三瓶周辺施設、地元地域との連携	周辺施設や地域との協力体制の構築を図り、大田市への提言や実践により、三瓶地域の再生・発展に寄与する。	地元地域や教育機関との連携は高く評価できる。三瓶地域全体の再生・発展に積極的に協力してもらいたい。
	組織体制の強化・充実	将来を見据えた採用計画、それに基づく体制強化を図り、人材確保・育成に努める。	業務内容はどれも島根県の中核的な役割を担っているため、長期的な視点を持ちながら、計画的に組織体制の強化や充実を図ってもらいたい。
総合コメント			
当該財団は、三瓶自然館サヒメルの管理運営を目的に設立された団体であるが、平成17年度から指定管理制度に移行し、県との財政的な関係が整理され、その後は独自の経営努力により経営の安定化が求められることになり平成22年度からは指定管理制度第2期がスタートした。実績については、財団の努力で入場者数が目標値を上回っており評価できる(目標値比107%)。また、平成20年度から環境事業が継承されたことにより、今後は、島根県全般の自然環境に関する調査研究と生物多様性の保全を担う団体として、学芸員の知識やこれまで育ててきた地域との連携を生かし、県内の各団体や県民との連携を深め、三瓶自然館等の管理だけにとどまらない、全県的な活動がさらに広がることを期待したい。			